

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1980800011		
法人名	ルミナス株式会社		
事業所名	グループホームひかり昭和西条		
所在地	昭和町西条2092		
自己評価作成日	平成29年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年9月27日(月)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月必ず一回以上外出することが会社として決められているが、それ以外にも個別に外出を行ったりし、気分転換や四季を感じていただけているようにしています。
また、夏祭りやクリスマス会にはご家族の方々や近隣の方にも参加頂き、交流を深めています。現在は昭和町の認知症サポーターの方にも来ていただいたりと地域密着型のホームです。(9月にも開催)中庭には菜園があり、栽培や収穫をお手伝いしていただきながら、売り物が摂れた際には玄関先の自動販売機で販売したりもしています。もちろん摂れた野菜は食事も出され、四季毎に美味しい野菜が召し上がれます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、2ユニット、平屋建ての建物で閑静な住宅街の中にある。事業所本部は首都圏に9か所のグループホームを展開している。事業所本部が関わる職員研修が年間には15回を超えており、職員研修が利用者の日々のケアに反映されている。9グループホーム全体の共通した理念「ひとに光を」を掲げ、利用者、家族、職員のバランス良い運営を目指している。外出、外食、楽しみ事に通ずる行事にも車いすでも参加できる職員体制を整えており、外出の機会を大切にしている。地域との関係づくりにも努力しており、カフェの開催、地域の障害者施設の野菜販売などを行っている。利用者はそれぞれに、ゆったりと和やかな雰囲気の中で穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームひかり昭和西条**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西ユニット)	ユニット名(東ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念として「ひとに光を」を掲げ、利用者・ご家族・スタッフの3者にとって光ある環境を提供できるよう心がけ、日々のケアをしています。	運営理念として「ひとに光を」を掲げ、利用者・ご家族・スタッフの3者にとって光ある環境を提供できるよう心がけ、日々のケアをしています。	組織全体の理念「ひとに光を」の他に、グループホーム独自の理念とユニットごとのスローガンを職員が話し合い、作成している。毎月のカンファレンスで、理念が反映されているかを話し合い、その日に起きた問題はその日に対応を決め、その場にはない職員にもSNSを使い情報を共有し、ケアの統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昭和町認知症サポーターの方々を受け入れることにより、より地域とつながりが深まっています。また外出をしたり、ボランティア(紙芝居、ギター等)の方を呼ぶことによって、外出が困難な方にも繋がりを感じてもらっています。	昭和町認知症サポーターの方々を受け入れることにより、より地域とつながりが深まっています。また、ホーム前の小学校から運動会の招待状が届き見学の参加をしています。	夏祭り・クリスマス会などの事業所行事に地域住民を招待している。小学生が音楽演奏に訪れ、また利用者が運動会に参加するなどして交流している。認知症サポーターも日常的に訪れている。月にカフェを開き、「ひかり新聞」を配布したり、障害者施設の野菜を販売するなど地域との接点を持つ努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門学生の実習先や、認知症サポーターの方の実習先としての受け入れをしている。また小学校の運動会の観覧を通じグループホームでの生活等を感じていただけるよう努めています。	専門学生の実習先や、認知症サポーターの方の実習先としての受け入れをしている。また小学校の運動会の観覧を通じグループホームでの生活等を感じていただけるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催することによって、地域の様子を知ることができるため行事に参加したり、役場との連携も深まり連絡を取り合っておりより良いサービスを提供できるようになっている。	2か月に1回開催することによって、地域の様子を知ることができるため行事に参加したり、役場との連携も深まり連絡を取り合っておりより良いサービスを提供できるようになっています。また、ホームでの活動報告や課題を話し合うことによりサービス向上に繋がっています。	2か月に1回、平日の昼間に開催している。事業所から現況、行事などの報告の後、質問や意見要望を聞いている。メンバーからは様々な意見が出され、双方向的な会議を持っている。夏祭りやクリスマス会の開催時期についての意見が出され、すぐに検討し、要望を反映した。また、災害時の地域避難所の指定についても要望が出され、取り組みを始めたところである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時、町の担当者へのホーム運営状況や試み、新規利用者のアセスメント状況等について報告しています。また、町主催の地域密着型運営会議に出席し、現状報告や課題をお話させていただいています。	随時、町の担当者へのホーム運営状況や試み、新規利用者のアセスメント状況等について報告しています。また、町主催の地域密着型運営会議に出席し、現状報告や課題をお話させていただいています。	運営推進会議の議事録を渡す際や、会議の参加の際などに、利用者の現状や課題を話すよう努めている。認知症サポーター講習などを通じて事業所の現況を見てもらい、アドバイスを貰っている。行政の規模が小さいため関係は密であること、町と情報を共有することで良好な協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行っているカンファレンスにおいて事例を用いた研修をしたり、本社研修によって新しい身体拘束についての知識を学んでいる。	毎月行っているカンファレンスにおいて事例を用いた研修をしたり、本社研修によって新しい身体拘束についての知識を学んでいます。	本部が開催する研修会と、研修講師を招いての研修がある。毎月のカンファレンスでもビデオを使い事例をより具体的に研修している。スピーチロック、尊厳を大事にしたケア、認知症ケアなどを学んでいる。研修内容を全職員に周知し、不適切なケアがあった場合は、その場で職員間で注意あっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行っているカンファレンスにおいて事例を用いた研修をしたり、本社研修で虐待についての知識を学んでいる。	毎月行っているカンファレンスにおいて事例を用いた研修をしたり、本社研修で虐待についての知識を学んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学ぶ機会を持ち、個々の必要性に対応できるように支援しています。	社内研修にて学ぶ機会を持ち、個々の必要性に対応できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時、契約書・重要事項説明書の内容説明を行い、不明な点や疑問点に回答し、ご理解いただいてから入居されています。	利用契約時、契約書・重要事項説明書の内容説明を行い、不明な点や疑問点に回答し、ご理解いただいてから入居されています。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームひかり昭和西条**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
		ユニット名(西ユニット)	ユニット名(東ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等に近況報告を出し、来訪時に細かくお話をさせていただいています。また運営推進会議を2ヶ月に1度開催することにより、迅速に意見を聞くことができ、運営に対応可能な場合は即対応し、不可能な場合も適切に説明しています。	左記内容に加え、本社から発信されるCSアンケートにより、ご家族の意見・要望を把握、改善するべきところは課題としてホーム運営に反映させています。	月に1回、家族に手紙で近況を知らせている。面会時には、必ず話しかけ、日々の様子を伝えている。その中で、家族の意見を聞き、要望を汲み取っている。出された意見は月毎の近況報告で返答している。本社の行うアンケートでも家族の意見・要望を聞き運営に反映している。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に日常的にスタッフから意見・提案をこちらから聞いていくことと、3ヶ月に1度の面談を設けて意見をまとめ月に一度の本社会議の際に提出しています。	個別に日常的にスタッフから意見・提案をこちらから聞いていくことと、3ヶ月に1度の面談を設けて意見をまとめ月に一度の本社会議の際に提出しています。	職員の意見・要望、ケアに関する提案などは日々のカンファレンスで聞き反映している。またSNSを活用し、意見や提案を受けることもある。3か月毎の個人面接はOJTシートを使い指導したり、給与に関する疑問、人間関係の悩みなども聞く機会としている。内容によっては本部に問い合わせるなどし意欲が持てるよう配慮している。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設けており、OJTシート等を使用して管理者・スタッフが日々向上心を持ちケアに取り組める環境になっています。また新卒採用時の制度も新しく設けたことにより、新しく入ったスタッフにもやりがいを持ってもらえるようにしている。	キャリアアップ制度を設けており、OJTシート等を使用して管理者・スタッフが日々向上心を持ちケアに取り組める環境になっています。また新卒採用時の制度も新しく設けたことにより、新しく入ったスタッフにもやりがいを持ってもらえるようにしています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で行われる年間社内研修計画があり、新人から管理者まで計画に沿って研修が行われており参加しています。全員が参加できるようにシフトを組んでいます。	本社で行われる年間社内研修計画があり、新人から管理者まで計画に沿って研修が行われており参加しています。全員が参加できるようにシフトを組んでいます。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社で行われる社内研修で別ホームとの交流や会議をしたり、他事業者様の研修に参加して意見交換なども行っている。また訪問看護を通じての情報交換をしています。	本社で行われる社内研修で別ホームとの交流や会議をしたり、他事業者様の研修に参加して意見交換なども行っている。また訪問看護を通じての情報交換をしています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談受付の際よりご本人との面会を行い、人生史や今後の要望などを可能な限り伺っています。また安心して生活をできるように事前にホームを見学していただいています。	相談受付の際よりご本人との面会を行い、人生史や今後の要望などを可能な限り伺っています。また安心して生活をできるように事前にホームを見学していただいています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付の際に、ご家族等にもお話を伺い今後のケアに役立てています。また、入居3日目・7日目に電話や面会時に様子を詳しく説明することによって関係を構築している。	相談受付の際に、ご家族等にもお話を伺い今後のケアに役立てています。また、入居3日目・7日目に電話や面会時に様子を詳しく説明することによって関係を構築している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付の際は、担当CMやMSWからの情報も集めた上で、グループホームでのケアが必要であるか見極め、必要に応じて他のサービスの紹介を行い、問題解決が適切に実施されるよう心がけています。	相談受付の際は、担当CMやMSWからの情報も集めた上で、グループホームでのケアが必要であるか見極め、必要に応じて他のサービスの紹介を行い、問題解決が適切に実施されるよう心がけています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として、コミュニケーションを大切に一緒に生活をしていただけるよう出来る事は一緒にしていただいている。またそうする中で利用者の方々の心情の変化を読み取り対応するようしています。	本人の生活を職員がお手伝いする利用者本位の現実に向けて、本人に伺いながら本人の意思決定に基づき、出来ない所は支援していくよう努めています。また、職員が分からないことを教えていただいたときには、尊敬と感謝の気持ちを伝えるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームひかり昭和西条**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西ユニット)	ユニット名(東ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族等の持っている悩み、不安を共有し利用者と一緒に支えていく関係を築いています。また、ケアプランにおいて、家族の面会を願ひし、より一体感のあるケアをしています。また外部の会社を置き、いつでも相談出来る窓口がある。	ご家族等の持っている悩み、不安を共有し利用者と一緒に支えていく関係を築いています。また、ケアプランにおいて、家族に向けての面会や外出も組み込み、家族と本人の絆を支えていくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族等、ご友人などの方々いつでも面会にお越しいただけることを伝えています。また、外出や外食の機会を近場にも設けていることよって、ここは知ってるよなどと言っていたできるようにしています。特に親しいご友人などは行事にお誘いするなど工夫しています。	ご家族等、ご友人などの方々いつでも面会にお越しいただけることを伝えています。また、外出や外食の機会を近場にも設けていることよって、ここは知ってるよなどと言っていたできるようにしています。特に親しいご友人などは行事にお誘いするなど工夫しています。	利用者一人ひとりの生活背景の把握に努め、これまで培った関係を継続できるよう支援している。利用者の家族、友人に働きかけたり、毎月開催する事業所イベントへの参加を呼び掛けるチラシを地域に配布したりしている。また、散歩や外食も、利用者の馴染みの場所である近くの大型店を利用することで、地域の知人と出会う機会になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の一人一人の性格を把握し、職員が仲介役となり、利用者同士で楽しく話したり、時には喧嘩したりもありますが、支えあい生活出来るよう支援しています。	利用者の一人一人の性格を把握し、職員が仲介役となり、利用者同士で楽しく話したり、時には喧嘩したりもありますが、支えあい生活出来るよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた後も、ご家族や担当者の方からの相談は都度応じるようにしています。また、仲の良かった方を面会に連れて行ったりもしています。	他の施設へ移られた後も、ご家族や担当者の方からの相談は都度応じるようにしています。また、仲の良かった方を面会に連れて行ったりもしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から利用者のしたいことや、昔話などを聞き、良く関わることよって、利用者の思いを汲み取るように努めています。毎月行っている外食や手作りランチは利用者様のご意見を聞き実施しています。また、ケアプラン以外にも毎月聞き取りを行いカンファレンスにて状態確認として話し合っています。	普段の会話の中から、利用者の思いをくみ取るように努めています。毎月行っている外食や手作りランチは利用者様のご意見を聞き実施しています。また、困難な場合は、生活歴やご家族の話、本人の表情などから把握、全職員で検討し本人の思いをくみ取る努力をしています。	職員は利用者一人ひとりの思いや意向を、日々のかかりの中での会話や表情から読み取るよう努力している。入居時に、本人・家族から聞き取り、入居後は職員、来訪者からの情報を聞き多角的な視点から見るよう努めている。全ての利用者ではないが、利用者自身が自分史ノートや日記を書くことを支援しており、その中からその人の思いや意向を知ること多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等だけでなく、アセスメントや今までのサービス提供過程とその経緯を担当マネージャーに伺っています。また自分史をご家族やご本人に書いていただき、更に情報収集をしています。	ご家族等だけでなく、アセスメントや今までのサービス提供過程とその経緯を担当マネージャーに伺っています。また会話や行動、こだわり等生活のあらゆる場面で、更に情報収集をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは、利用者の状態変化や様子を申し送り時・日常生活時に情報交換し理解ある仲介者となるよう心がけています。カンファレンスではケアプラン更新の方以外にも状態確認をしています。	スタッフは、利用者の状態変化や様子を申し送り時・日常生活時に情報交換し理解ある仲介者となるよう心がけています。カンファレンスではケアプラン更新の方以外にも状態確認をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの際にアセスメントやモニタリングを実施し、家族とも話し合い、ケアの内容を決定させていただいています。	カンファレンスの際にアセスメントやモニタリングを実施し、家族とも話し合い、ケアの内容を決定させていただいています。	入居時、家族・本人からの情報を基に暫定のプランを作成している。1～2か月後に全職員でカンファレンスを行いアセスメント、モニタリングを通して職員の意見・気づきを反映した介護計画を作成している。往診医、訪問看護師の意見も聞き、利用者主体のプランとなるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有グループを作ることよって、東フロアとも気づきを共有しています。またそれをカンファレンス等の際話し合う体制が整っています。	情報共有グループを作ることよって、西フロアとも気づきを共有しています。またそれをカンファレンス等の際話し合う体制が整っています。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームひかり昭和西条**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西ユニット)	ユニット名(東ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護サービスにより健康状態の把握に努め、利用者・家族のニーズに対応できるよう訪問マッサージ・訪問歯科の導入をしています。また会社の機関に属さない独立したQC室を設置し、顧客満足度調査などを行っています。	訪問看護サービスにより健康状態の把握に努め、利用者・家族のニーズに対応できるよう訪問マッサージ・訪問歯科の導入をしています。また会社の機関に属さない独立したQC室を設置し、顧客満足度調査などを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや介護保険係、他事業所のケアマネージャー達と協力しながら、地域資源の活用について話し合いをしています。	地域包括支援センターや介護保険係、他事業所のケアマネージャー達と協力しながら、地域資源の活用について話し合いをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、利用者・ご家族の希望のある医療機関にかかれるように外出支援しています。また、希望で月2回、甲州リハビリテーションの医師に往診していただいています。	受診の際は、利用者・ご家族の希望のある医療機関にかかれるように支援しています。また、希望で月2回、甲州リハビリテーションの医師に往診していただいています。	利用者、本人の希望するかかりつけ医となっている。これまでのかかりつけ医に受診する場合は家族対応が基本だが職員が対応することもある。内科医(月2回)と、歯科医の往診に加え、訪問看護師は週1回の頻度で来ている。医療情報は家族、全職員が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	甲州訪問看護ステーションより看護師が毎週金曜日に健康チェック等をしに来ていただいています。日々のケアでの気づきや対応を相談しています。	甲州訪問看護ステーションより看護師が毎週金曜日に健康チェック等をしに来ていただいています。日々のケアでの気づきや対応を相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	各医療機関の方々や入退院の際には、必ず情報交換の機会を設けていただいています。またソーシャルワーカーとの連絡を入院中は少なくとも1週間に1度はしている。入院中の方がいない場合でも2か月に1度程度のペースにて広報誌をお持ちして関係を作っている。	各医療機関の方々や入退院の際には、必ず情報交換の機会を設けていただいています。またソーシャルワーカーとの連絡を入院中は少なくとも1週間に1度はしている。入院中の方がいない場合でも2か月に1度程度のペースにて広報誌をお持ちして関係を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や担当医の方との積極的な話し合いの場を設け、重度化や終末期への対応方針について協議を行っています。	家族や担当医の方との積極的な話し合いの場を設け、重度化や終末期への対応方針について協議を行っています。	入居時や入居後の日常の中で家族の思いや願いを直接会って聞いている。日頃から家族の考え方を大切に、終末期の対応や方針を話し合っている。事業所本部の方針は「基本的には看取り支援は行わない」となっているが、家族、本人の希望を受け、看取り支援を行ったことがある。主治医、看護師との医療連携を図り家族・職員も含めチームで支援できる体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時の研修や、張り紙等による徹底をし、急変や自己発生時の対応をカンファレンスなどで再確認して、常に学んでいます。またAEDの使用法など年に1度程度のペースで(全員受けた後は新しい職員が来たら)行っている。	入職時の研修や、張り紙等による徹底をし、急変や自己発生時の対応をカンファレンスなどで再確認して、常に学んでいます。またAEDの使用法など年に1度程度のペースで(全員受けた後は新しい職員が来たら)行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて、参加者の方々に協力をお願いするとともに、年に3回の消防・避難訓練をし、毎回違う状況を作り、避難経路を複数確保し、職員にもカンファレンスなどで再確認しています。時間を計り、職員も利用者にも意識を持ってもらっている。	運営推進会議にて、参加者の方々に協力をお願いするとともに、年に3回の消防・避難訓練をし、毎回違う状況を作り、避難経路を複数確保し、職員にもカンファレンスなどで再確認しています。時間を計り、職員も利用者にも意識を持ってもらっている。	年3回、地震、火災の消防・避難訓練を実施している。毎回、違う状況を想定し、内1回は夜間想定した訓練を行っている。各ユニットの夜勤者のみで避難する方法を、実際にシミュレーションして行っている。その都度、避難にかかる時間を計り、職員カンファレンスの場で検証し安全に速やかに避難・誘導できる方法を話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフにはカンファレンスにおいて、日々のケアや一人一人に合った声掛けの統一・理解をしていただいています。	スタッフにはカンファレンスにおいて、日々のケアや一人一人に合った声掛けの統一・理解をしていただいています。	事業所本部の教育を受け、プライバシー、個人情報の保護、人格の尊重に配慮した対応をしている。自尊心にも配慮した具体的な言葉かけを全職員が統一し、その人に合った声かけをしている。個人情報の保護に関しても適切に対応しており、書類関係は事務室に管理されている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームひかり昭和西条**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西ユニット)	ユニット名(東ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中からコミュニケーション作り、信頼関係作りへ努め、本人の思い、希望を表出できるよう努めています。午後は個別に話す時間を作っている。	思いや希望を表せるようなコミュニケーションに努め、外出行事の行先や食事・おやつ作りの提案をしていただいたり、お茶の時間の飲み物等を選んでいただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一人一人に声掛けをし、その日の様子により比較的柔軟な対応を行っています。共同生活の場なのである程度の決まりはあるが、基本的にご自分の意思でやりたいことなどがある場合そちらを尊重している。	一人一人に声掛けをし、その日の様子により比較的柔軟な対応を行っています。カラオケがしたい、ドライブ行きたい、今日はお風呂に入りたくない等希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や起床時の整容等は、出来る限りご本人に行っていただけるよう支援しています。また、外出できる方はお小遣いに余裕がある時は家族の同意を得た後に外出支援により買い物に行ける体制があります。	衣類の選択や起床時の整容等は、出来る限りご本人に行っていただけるよう支援しています。また、外出できる方はお小遣いに余裕がある時は家族の同意を得た後に外出支援により買い物に行ける体制があります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度両フロア合同で昼食を作ったり、その際に好みのメニューなどに行っています。テーブル拭きや片付けなどできる利用者には声を掛けてお手伝いしていただいています。	月に一度両フロア合同で昼食を作ったり、その際に好みのメニューなどに行っています。テーブル拭きや片付けなどできる利用者には声を掛けてお手伝いしていただいています。	専任の調理スタッフが買い物・調理する場合と、業者からの食材配達とを組み合わせている。比率は半々だが業者メニューと、利用者の希望や声を柔軟に反映できるメニューとになっている。2ユニット合同で好みのものを作る機会もある。職員、利用者が同じものを食べて、楽しい食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・食事形態を一人一人に合わせ提供しています。食事量・水分の摂取量は介護記録等に都度記録し、全スタッフが把握できるようにしています。	食事量・食事形態を一人一人に合わせ提供しています。食事量・水分の摂取量は介護記録等に都度記録し、全スタッフが把握できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導や介助により口腔ケアをしています。また、必要な方にはケアプランに記載しその方に添ったケアをしています。	毎食後、声掛け誘導や介助により口腔ケアをしています。また、必要な方にはケアプランに記載しその方に添ったケアをしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄に心がけ、個人のチェック表を記入して、本人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っています。また、カンファレンスを通してリズムを話し合い、その方に適した方法を検討しています。	トイレでの排泄に心がけ、個人のチェック表を記入して、本人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っています。また、カンファレンスを通してリズムを話し合い、その方に適した方法を検討しています。	排泄チェック表を記入し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。トイレ誘導の際は、本人に確認し自尊心やプライバシーに配慮した声かけを行っている。その人に合った排泄支援を職員カンファレンスで検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前や、お茶の時間などに牛乳や牛乳を使った物を提供したり、体操を行い腸内活性を促し便秘予防に努めています。	朝食前や、お茶の時間などに牛乳や牛乳を使った物を提供したり、体操を行い腸内活性を促し便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の方は毎日入浴できる体制が整っています。また入浴の際は必ず事前に声掛けを行い、入浴が確認しています。	希望の方は毎日入浴できる体制が整っています。また入浴の際は必ず事前に声掛けを行い、入浴が確認しています。	毎日の入浴が可能だが、本人の希望で1日おきに入浴し、通常は午前中に入浴している。入浴順は利用者の希望に沿っている。入浴を嫌がる場合でも着替えは行い清潔に過ごせるよう努めている。シャンプー類、入浴剤など利用者が入浴を楽しめるよう多種類の物を用意している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームひかり昭和西条**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西ユニット)	ユニット名(東ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活習慣に合わせ、就寝時間や環境作りを支援しています。またシーツなどの替えを可能な限り複数用意していただき、なるべくいつでも休息できるよう努めています。	利用者一人一人の生活習慣に合わせ、就寝時間や環境作りを支援しています。またシーツなどの替えを可能な限り複数用意していただき、なるべくいつでも休息できるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や副作用等スタッフに徹底させ、二人のスタッフでチェックすることによって、より薬についてお互い学べるような体制を整えています。また、かかりつけ医に訪問看護も含めて状態を報告し、随時対応できるようにしています。	服薬内容や副作用等スタッフに徹底させ、二人のスタッフでチェックすることによって、より薬についてお互い学べるような体制を整えています。また、かかりつけ医に訪問看護も含めて状態を報告し、随時対応できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回以上の外出・外食は利用者から希望を伺い実現できるようにしたり、音楽会や手作りランチによってご自分の得意とするところを発揮できるよう努めています。また日々の中でコミュニケーションを取っていき、ホーム内で可能なことであれば出来る限り用意して行っていたい。	月1回以上の外出・外食は利用者から希望を伺い実現できるようにしたり、音楽会や手作りランチによってご自分の得意とするところを発揮できるよう努めています。また本人に必要と見極めた支援には、ご家族や職員と実現に向けて話し合いをします。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	D勤務という形態があり、日々のケア以外にも対応出来るようになってきているため可能な限り戸外への外出などの支援に努めている。また利用者の話を日常的に聞いていき、普段では行けないような場所の場合は、家族に連絡を取り出かけられるようにしている。	D勤務という形態があり、日々のケア以外にも対応出来るようになってきているため可能な限り戸外への外出などの支援に努めている。また利用者の話を日常的に聞いていき、普段では行けないような場所の場合は、家族に連絡を取り出かけられるよう支援しています。	事業所本部の方針でもあり、外出、外食、ドライブなど年間通して、イベントを大切にしている。また、日常の散歩、外出も積極的に行っている。利用者が外に出ることの意義を理解し、車いす利用者であっても外出を支援している。職員勤務体制に3人の職員がケア以外の事務処理に充てている日があり、外出時には支援に加わっている。職員数を増やすことが出来るため全利用者の外出が可能になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ホームでの金銭管理を行っています。ご本人の希望があれば一緒に買い物に行き、お財布などを自分で持っていたり、使っていたりするように支援している。	基本ホームでの金銭管理を行っています。ご本人の希望があれば一緒に買い物に行き、お財布などを自分で持っていたり、使っていたりするように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、利用者がご家族等いつでも連絡が取れる体制を整えています。またハガキを用意して一緒に書いて出すなどの支援をしています。	電話は、利用者がご家族等いつでも連絡が取れる体制を整えています。またハガキを用意して一緒に書いて出すなどの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は整頓され、歩行時に過度な障害物がないように配置しています。また菜園にて四季に合わせた野菜を作ったり柿やみかんなどの季節の果物も植えています。	共有空間は整頓され、歩行時に過度な障害物がないように配置しています。また菜園にて四季に合わせた野菜を作ったり柿やみかんなどの季節の果物も植えています。	居間の壁面には、利用者で作った季節の貼り絵が飾られ、ダイニングテーブルとゆったりとしたソファが配置されている。ウッドデッキが広がり、その先に菜園があり季節の変化を楽しんだり、野菜作りを楽しんでいる。居室への廊下の奥にはベンチが用意され、利用者同士で思い思いに過ごせる居場所がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではソファを置き適度なスペースがあり、一人になれたり共に過ごすことが可能な配置になっています。また、非常口の所に建付けのベンチがあり、お1人になりたい方はそちらも利用されています。	リビングではソファを置き適度なスペースがあり、一人になれたり共に過ごすことが可能な配置になっています。また、非常口の所に建付けのベンチがあり、お1人になりたい方はそちらも利用されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具は収納棚のみで、その他の家財道具はお持ちいただいております。写真なども飾られたり、もともと住んでいた環境をそのまま持ってきたとしても差し支えない空間を提供しています。	備え付けの家具は収納棚のみで、その他の家財道具は持込んでいただいております。写真なども飾られたり、もともと住んでいた環境をそのまま持ってきていただくことにより、なじみの環境で安心して生活できるよう支援しています。	洋服ダンス、クーラー、カーテンが備え付けてある。ベッドや家具は馴染みの物を持ってきている。入居時に、できる限り自宅の状況に近づけるよう家族・本人と相談している。利用者一人ひとりの個性を感じる居室に整えてあり、家族写真、手芸作品、仏壇などが置かれている。壁の洋服掛けに、若いころに着たであろう和服が掛けているなど、心とらぐ居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりが設置されており、利用者が自然に活用できるように整備されています。またトイレの位置もわかりやすいようにサインを設けています。	廊下・トイレ・浴室には手すりが設置されており、利用者が自然に活用できるように整備されています。また、居室においても、本人の視線に合わせた位置に表札を掲げ、迷うことのないように工夫しています。		